

# 総合的な学習の時間のさらなる充実

～調べ学習から探究への歩み～



京都市総合教育センター研究課  
研究員 岩本 信吾

# 本日の流れ

1. 研究の背景
2. 研究の概要
3. 探究的な学びへの歩み
  - ① 単元計画のデザイン
  - ② 教員の探究的な姿勢の醸成
4. 成果と課題

# 1. 研究の背景

## ～社会情勢の変化～

予測困難な時代

人生100年時代

Society 5.0

マルチステージの人生モデルへの転換

労働市場の流動化

など



18歳意識調査「第62回 国や社会に対する意識」  
日本財団2024年4月

自分の国の将来について…**よくなる15.3%**  
**悪くなる29.6%**

自分の行動で国や社会を変えられる…**45.8%**  
(アメリカ65.6%インド80.6%)

なりたい職業 …**特にない13.5%**

(日本財団2024年4月 18歳意識調査より)

自らの人生を舵取りする力の育成

(令和7年9月25日教育課程企画特別部会 論点整理より)

# ～総合的な学習の時間の目標～

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、**よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成**

社会情勢の変化を乗り越えていくためにも重要

平成29年3月指導要領の改訂で、**4つのプロセス**の質的充実が求められている。

**実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析**  
して、**まとめ・表現**することができるようにする。

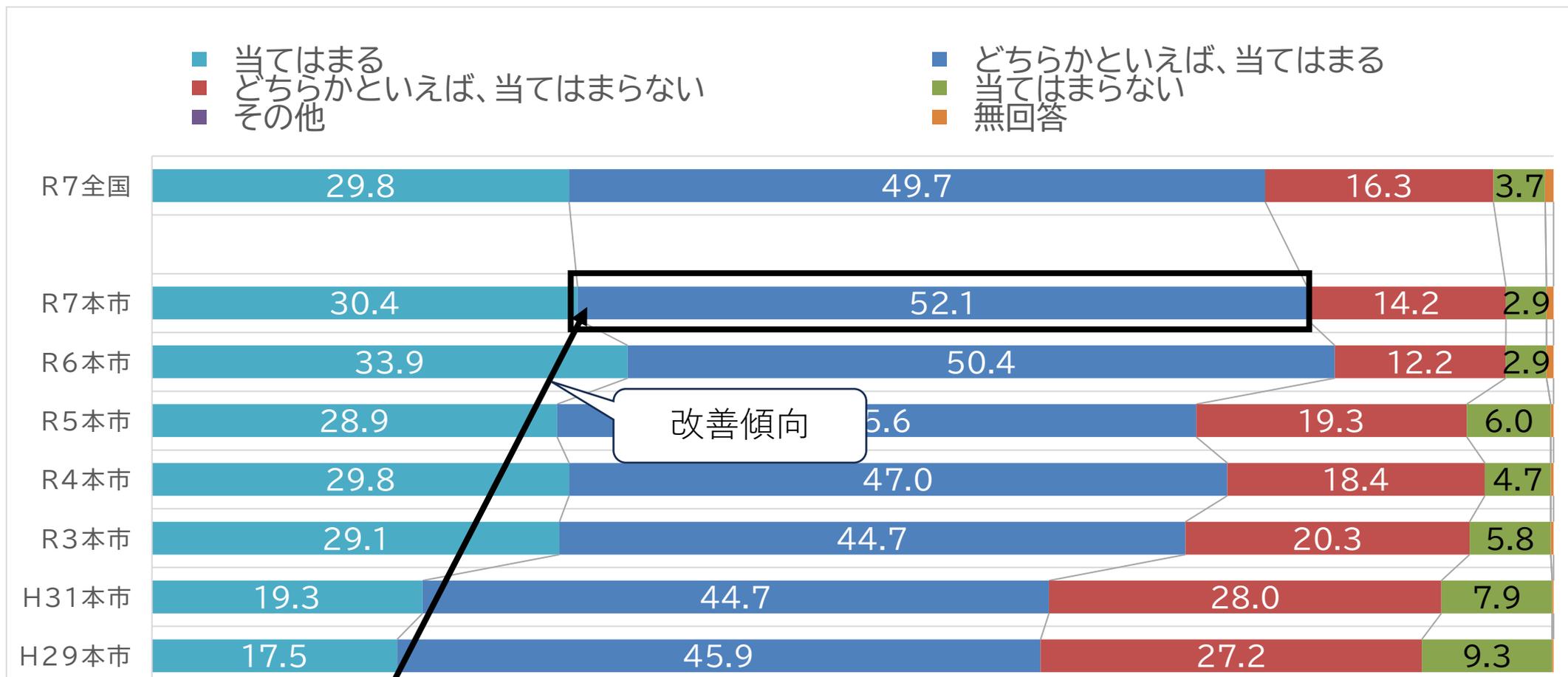
(中学校学習指導要領 総合的な学習の時間の目標)



# ～京都市の現状～

R7 全国学力学習状況調査の質問紙調査の状況から

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



実際にはこのようなことが起こっていませんか？



☆答えがすぐに見つかる

例) 「SDGsについて調べよう」  
「なぜ猫を飼う人が増えたんだろう」

☆作業・活動が目的化する

例) インタビュー  
スライド作り  
発表練習



☆問いは立てたが、調べて得た  
情報のみをまとめて発表

例) 「観光客は京都の何が好きなのか」  
インタビューをそのままのせる

☆先生の関わりが不十分

例) 生徒が考え直すきっかけを  
作るような声かけとは？  
主体性との間でどう関われば？



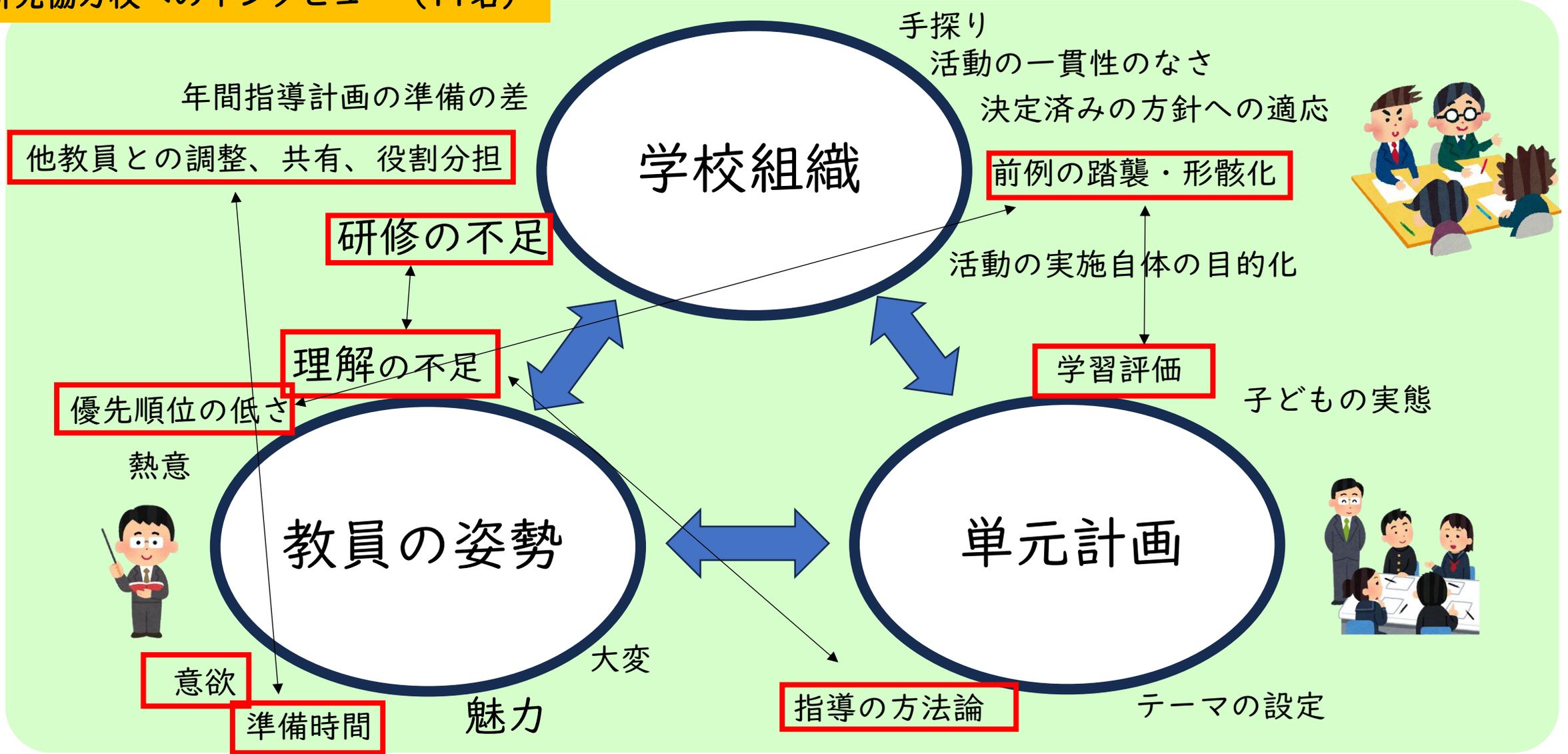
充実を妨げているものを解消し、教師が意義を理解して授業を計画し、適切に指導できるようにしたい。

- [願い]
- ・生徒が課題意識を持ち、考えつづけること。
  - ・探究のプロセスを充実させ、生徒も教員も学びが楽しいと思える総合的な学習の時間にしていきたい。

## 2. 研究の概要

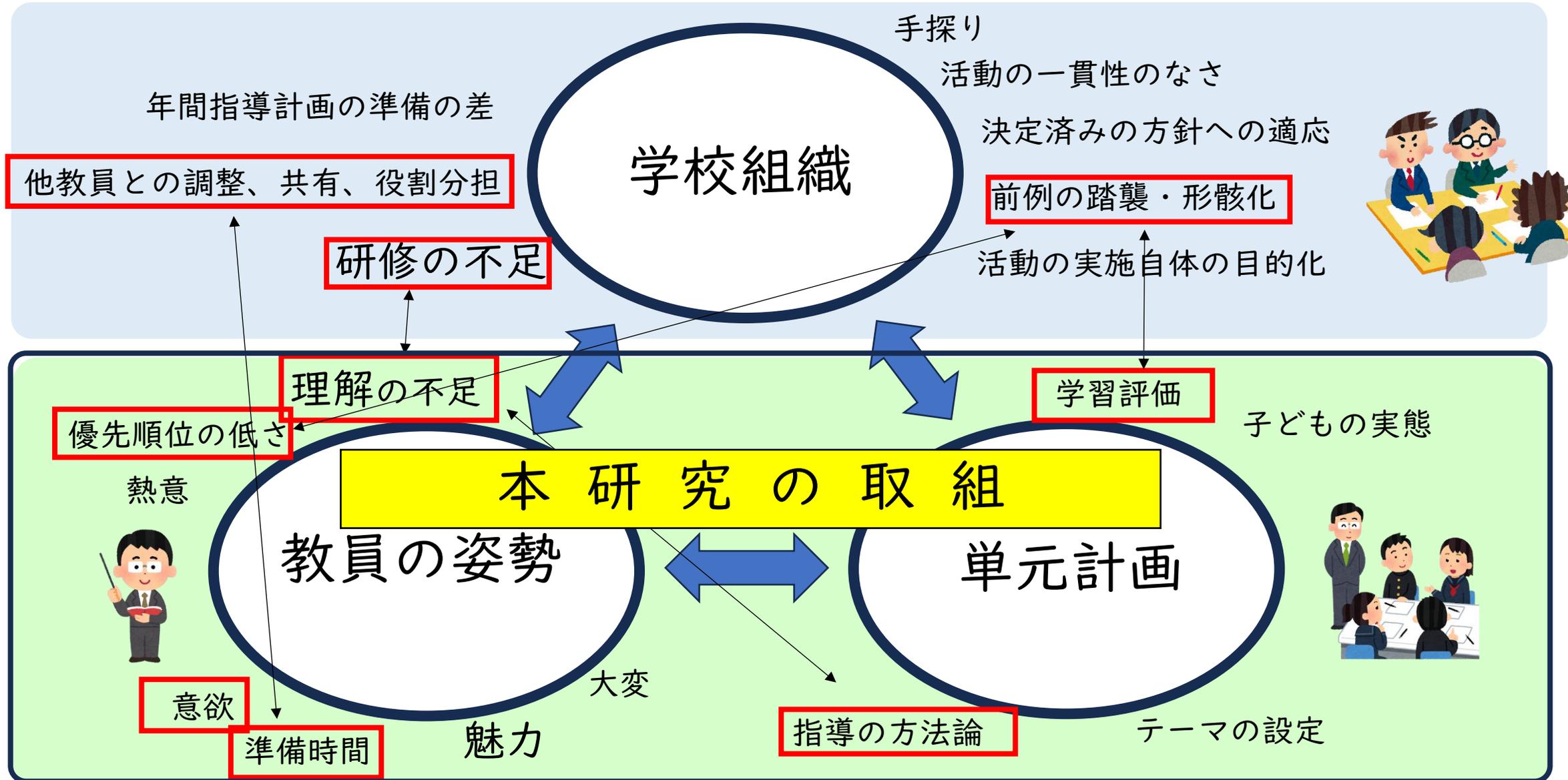
～総合的な学習の時間の充実を妨げているもの～

研究協力校へのインタビュー（11名）



## 2.研究の概要

～総合的な学習の時間の充実を妨げているもの～



目指す在り方

- ・ 学年での目標や見通し
- ・ 学年間の相互理解



- ・ 生徒の主体性と深い学び
- ・ 教師の関わり方の熟達



実践

仮説

これらを改善すれば、総合的な学習の時間がさらに充実するのではないか

学校組織

教員の姿勢



- 教員同士の対話
- 魅力や手法を理解
- 協力体制の構築

単元計画



- 目標の達成に向けた立案
- 人、もの、こととの出会い
- 進めながらの修正

### 3. 探究的な学びへの歩み

① 単元全体のデザイン

② 教員の探究的な姿勢の醸成

### 3.①単元全体のデザイン

### ～研究協力校の概要～

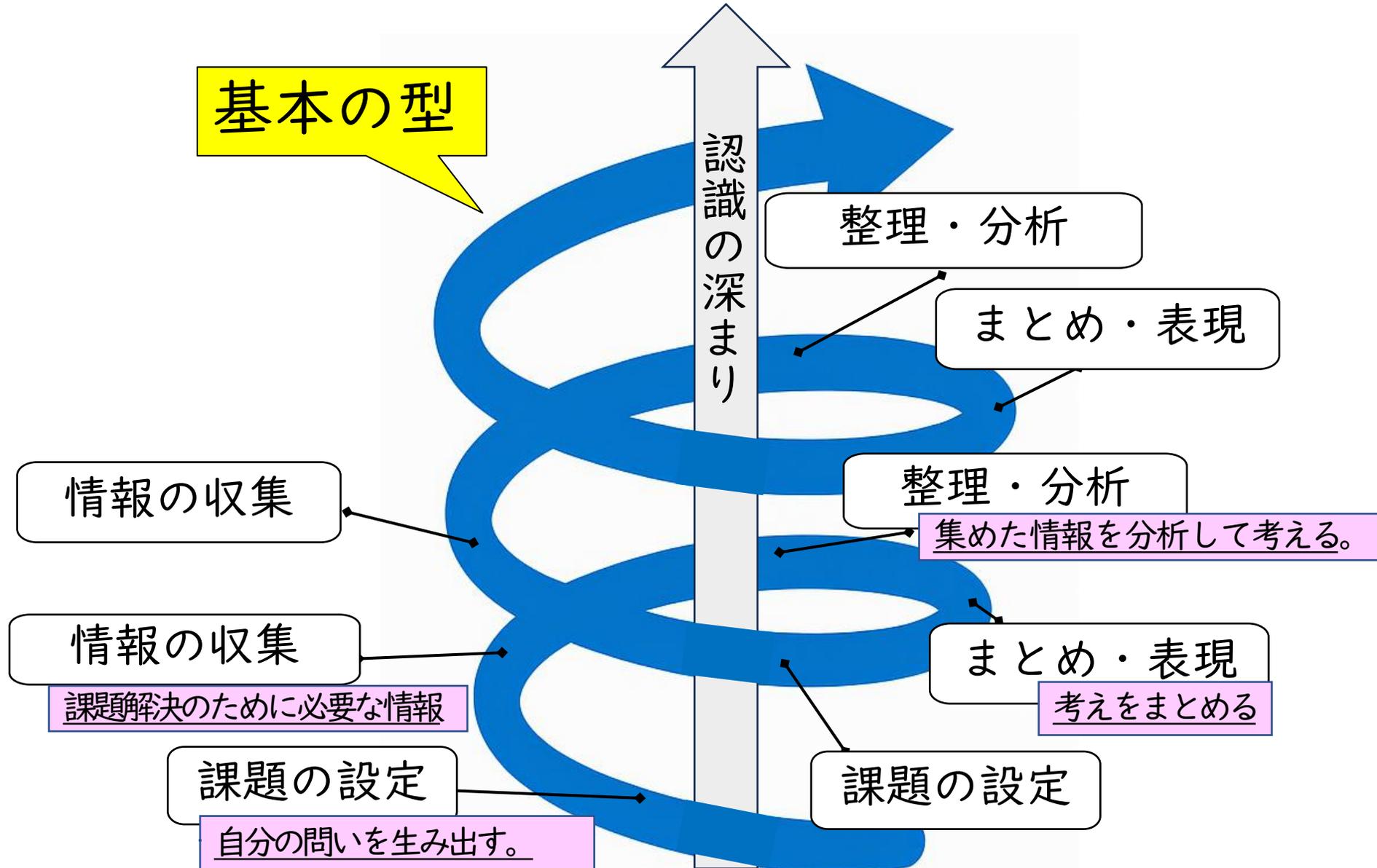
学校	主な学年	学習対象	取り組み内容
A校	3年 5クラス	環境・国際理解・ 文化・地域経済など	日本の町や文化の魅力に関わる人の思いや願いを知る 自分たちの興味関心に関する疑問を解決する
B校	9年 3クラス	町づくり（京都）	現代社会の様々な課題に気づき、解決策を提言する 持続可能な社会の担い手として自己の生き方にいかす
C校	3年 3クラス	町づくり（京都）	校外学習を通して、自分たちが望む町のあり方を企画し立案する 将来の町の姿を構想し、町づくりに参画する
D校	1年 3クラス	町づくり（地域）	地域の魅力や課題を理解する 解決策を企画し立案する
E校	3年 7クラス	キャリア	たくさんの幸せを考えることを通して、自分の生き方にいかす 自分の興味関心からの問いを解決していく
F校	7年 3クラス	防災	災害の恐ろしさと防災意識の大切さを知る 災害に備えた安全な町づくりにかかわろうとする企画提案する

実践発表

#### 各学校で大事にしてほしいポイント

- ★テーマに対して生徒の疑問や思いを十分に引き出し、自分(たち)で問いを設定させること。
- ★探究のプロセスを基本とした授業を計画すること。
- ★生徒の成長に応じて、生徒に学びをゆだねること。

### 3.①単元全体のデザイン ~単元全体のデザイン（基本型）~



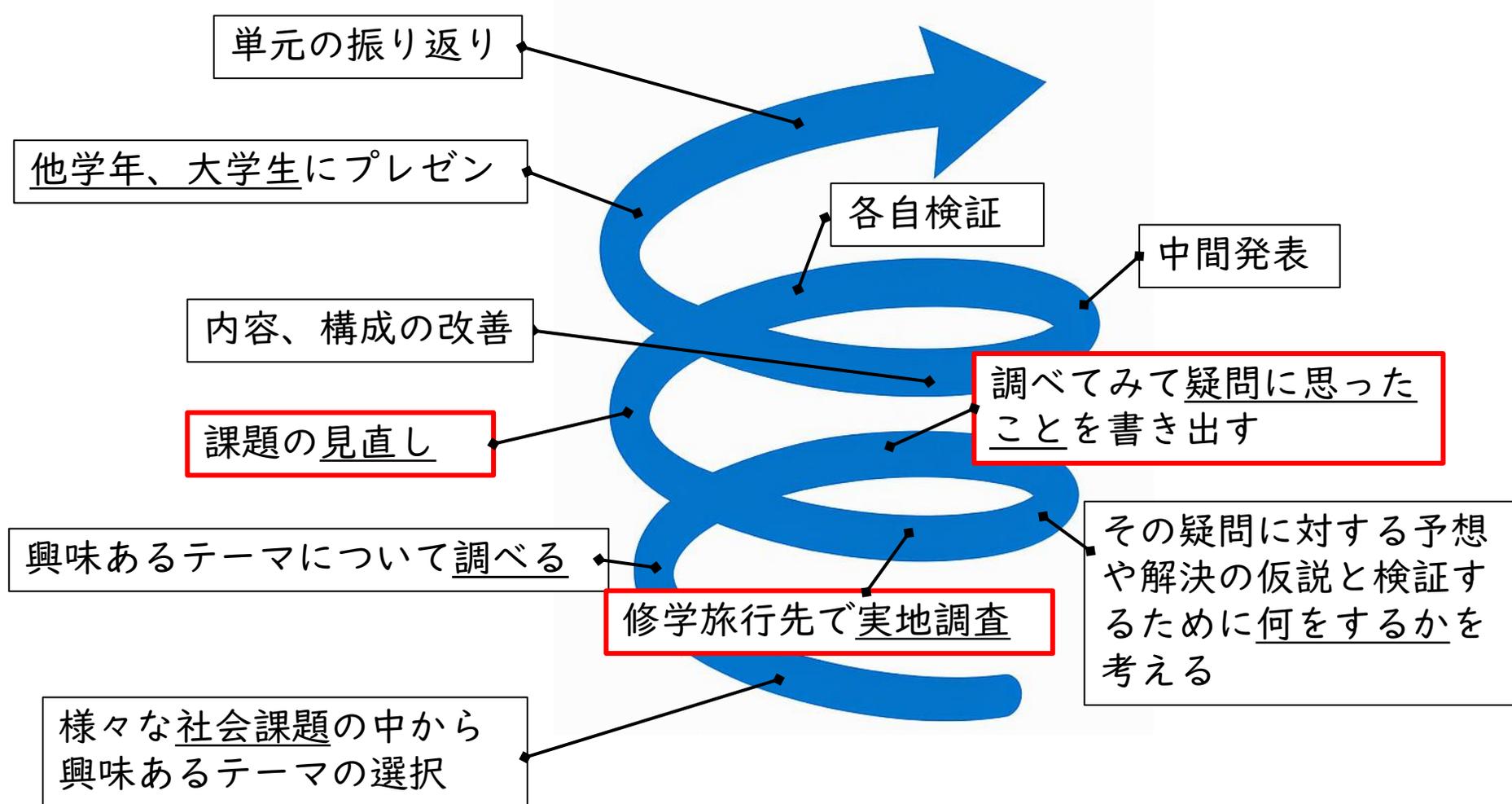
# A校

## ～社会課題（環境・国際理解・文化・地域経済など）の探究～

○対象学年… 3年生

○時数… 20h

○学級数 … 5クラス



自分たちの考えを  
発信しよう

実地調査して、  
検証してみよう

課題・仮説を考え  
よう

日本の社会問題に  
ついて調べよう

# A校

～社会課題（環境・国際理解・文化・地域経済など）の探究～

## 生徒の思いを反映した計画の修正

### 課題の設定

服が人に与える印象

露出度によって日本人はどう感じるのか ) 民族性  
それは他の国によって違うのか )  
服と色 その色は寒色か暖色によって人の ) 心理性  
心理性はどのように変わるのか )  
服の形 どう移り変わっていくのか  
その移り変わりはどのジャンルに入るのか

調べてみて疑問に思ったことを書き出す

### 情報の収集

修学旅行先で実地調査

調査先	調査内容	もっと知りたいこと
文化学園服飾博物館	各国の昔の服 服の特徴(昔)	違う国ごとでも似ている服があった その場に合った服になるように工夫されていた 服を作る際にあらゆる技法が用いられていた
渋谷ヒカリエ	歩いている人の服の特徴	黒と白の服を着ている人が多い ⇒黒と白は安定の色 シンプルな服装の人が多い ⇒複雑な模様よりも好まれている



### 整理・分析

課題の見直し

まとめ・表現

今の日本で流行している服はどこの国の服と融合したものなのか

年齢によって変わるファッションはどう違ってくるのか

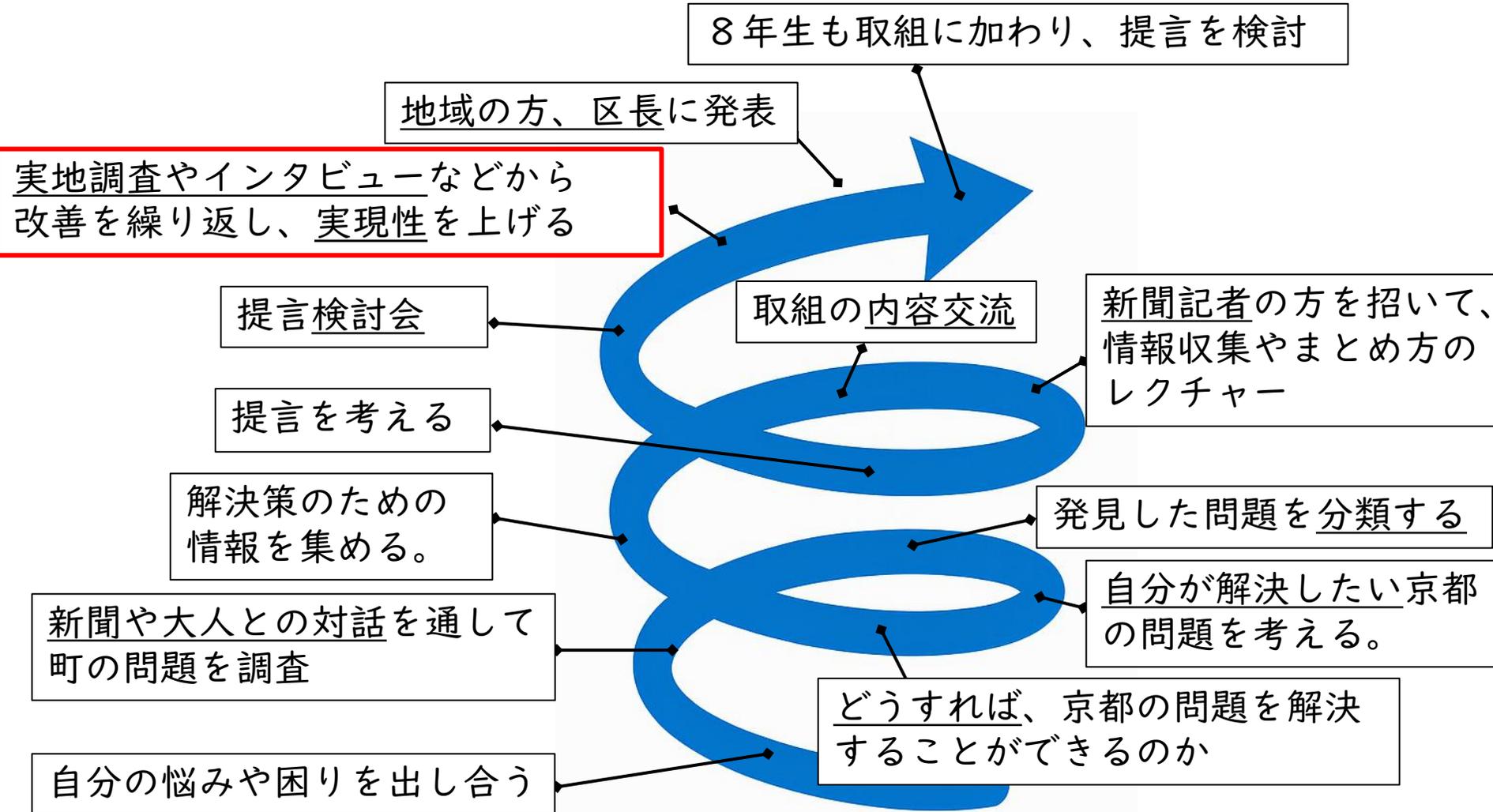
# B校

## ～生徒自ら取材・調査し、提言へ～

○対象学年… 9年生

○時数…50h (+22h)

○学級数 … 3クラス



自分たちの提言を伝えよう

課題を解決する提言を考えよう

多面的に考察しよう

私たちの町の課題を調査しよう

# B校

～生徒自ら取材・調査し、提言へ～

自分たちの考えを改善していくための活動に

実地調査やインタビューなどから  
改善を繰り返し、実現性を上げる

達成したい  
ゴールを示す

そのために何を  
していくのか

ゴールを示した黒板の写真

## 校外活動届

班名 ( 食・観光B①,② )  
行きたい場所 ( 山口さんの農家 )  
行きたい日 ( 10 ) 月 ( / ) 日  
時間 出発 ( 13 : 40 )  
活動時間 ( )  
帰校 ( 15 )  
行くメンバー ( )  
行く目的  
農業の過酷さについて知るための体験  
( 鬼力 )

総合的な学習の時間  
に行きたいところを  
事前に届け出る。  
→学年で検討。

農家体験をさせてもらえ  
るか電話で相談

電話をかけてアポを  
取っている生徒

農業の従事者問題の  
調査のために、  
スーパーのお客さん  
にシールアンケート  
を行う。



# C校

## ～修学旅行を組み込んだ単元計画～

○対象学年… 3年生

○時数… 2 | H

○学級数 … 3クラス

単元の振り返り

1年生にプレゼン

プレゼン作成

修学旅行先で実地調査。

新聞にして共有

校外学習を通して、京都の魅力を発見

京都と修学旅行先と比較し、京都の課題を検討。

京都の未来をどうすれば、輝かせることができるか考える。

修学旅行先の魅力について調べる。

行先に秘められた京都に勝るとも劣らない魅力を見つける。

修学旅行先で見分したいことを決める。

自分たちの考えを  
発信しよう

比較して提案を  
考えよう

修学旅行先の魅力  
取材しよう

京都の魅力を発見しよう

### 適切な例示によって、生徒に見通しを持たせる工夫

京都の未来をどうすれば、輝かせることができるか考える。

修学旅行先で実地調査。

校外学習を通して、京都の魅力を発見

比較

#### ワークシート

具体的な事例を提示することで、生徒は、自分たちのゴールが明確になった。



京都ではどこに行っても同じものが売りとされている



差をつける・府民の意見を取り入れる・真似してオリジナルを作る

この三つのキーワードを取り入れることによって、1日でいろんなところに行っても違うお土産が買えるようになる！

例1 静岡と京都の比較の場合

①テーマ

・「京都のお土産売り方改善」

②静岡と自分の住む地域を比較し、静岡の特色や自分の住む地域との違いをまとめ

・静岡では場所によってイチオシのお土産が違う。彫刻の森美術館では、ピカソなどの芸術家の絵を利用したお菓子や雑貨を、三島スカイウォークではスカイウォークの特徴を生かした長いバームクーヘンを販売している。  
・京都のお土産といえば、八つ橋・京ばあむ。京都ではどこに行っても同じものが売りとされている

③静岡の良さから学んだことを京都に生かすための提案

・そこで京都では3つのキーワードをもとにお土産を売るべき！  
①差をつける→京都にはたくさんの観光名所があるので、観光名所ごとにお土産に特徴を反映させる。  
例えば、金閣寺なら金箔を使ったお菓子や雑貨、伏見稲荷神社では鳥居の形をしたお菓子など。  
②府民の意見を取り入れる→この都道府県では、こんなものが売っていたよなど意見を出してもらう場を作ることでお土産だけでなく、街の活性化にもつながる。  
例えば、各地域で匿名で書ける意見箱を設置するだけでなく、インターネット上でも書き込めるようなサイトを作る  
③真似してオリジナルを作る→他府県と似ている場所で売られているお土産の発想を真似することで発展したオリジナルのものが完成するのでは？  
・この3つのキーワードを取り入れることによって、1日でいろんなところに行っても違うお土産が買えるようになる

④事前学習の内容と、金沢で学んだことや新たな発見から、分かったことや気づいたことを整理する。そして、最初に設定した課題に対する答えを導きます。

・違うお土産を売ることでたくさんの場所に観光客を引き寄せられ、さらに活気の溢れる京都が生まれていくのではないのでしょうか。

静岡のお土産の売り方を実際に見て体感したことにより、自分の住む地域をよりよくしたいと感じた。

# D校

## ～区役所と連携した町づくりの提案～

- 対象学年… 1年生
- 学級数 … 3クラス
- 時数… 20h

自分の学びを振り返る

区役所にプレゼン

区役所の方に質問

調査・検証のためのFW

提案の練り直し

地域の魅力について整理する。

どうすれば、魅力が高められるのかを考える(提案)

注目する魅力についての課題を挙げる。

区役所の方から地域の魅力についての話

自分たちが考えた課題をグループで練る。

地域の魅力を出し合う

提案を評価してもらおう

地域の魅力を高めるための提案を考えよう

級友や保護者、区役所から情報収集しよう

地域の魅力は何だろう？

# D校

## ～区役所と連携した町づくりの提案～

素朴な疑問を取材や対話を通して、探究しがいのある問いに発展

予想を立てて、実際の場所に行くことで、どこを見ればよいのか困らなかった。

企画書を使って、教員と対話。

区役所の方に質問

調査・検証のためのFW

提案の練り直し

問い：自分たちの街にもっと観光客が来るにはどうすればいいか

問い：商業施設を活性化するために若者をどうすれば呼び込めるか

問い：商業施設を「映えさせる」ためには、どうすればよいか

自分たちの考え→具体的なアドバイス→練り直し

アドバイスをもらっている様子

そこで!!!  
お手頃価格、山科の観光の思い出、発想、アイデアで映えさせる

疎水プリンを考案

日付	学んだこと できるようになったこと	次回、やりたいこと
11/17	琵琶湖疏水もいいところは沢山あるけれど、同じような魅力のある所もあるということがわかった	似たような所の違いをみつける。 ↓ 疎水にいる動物を調べてみる 疎水沿いにあるお寺とそこにある新しい感じの洋菓子屋さんを調べてみる

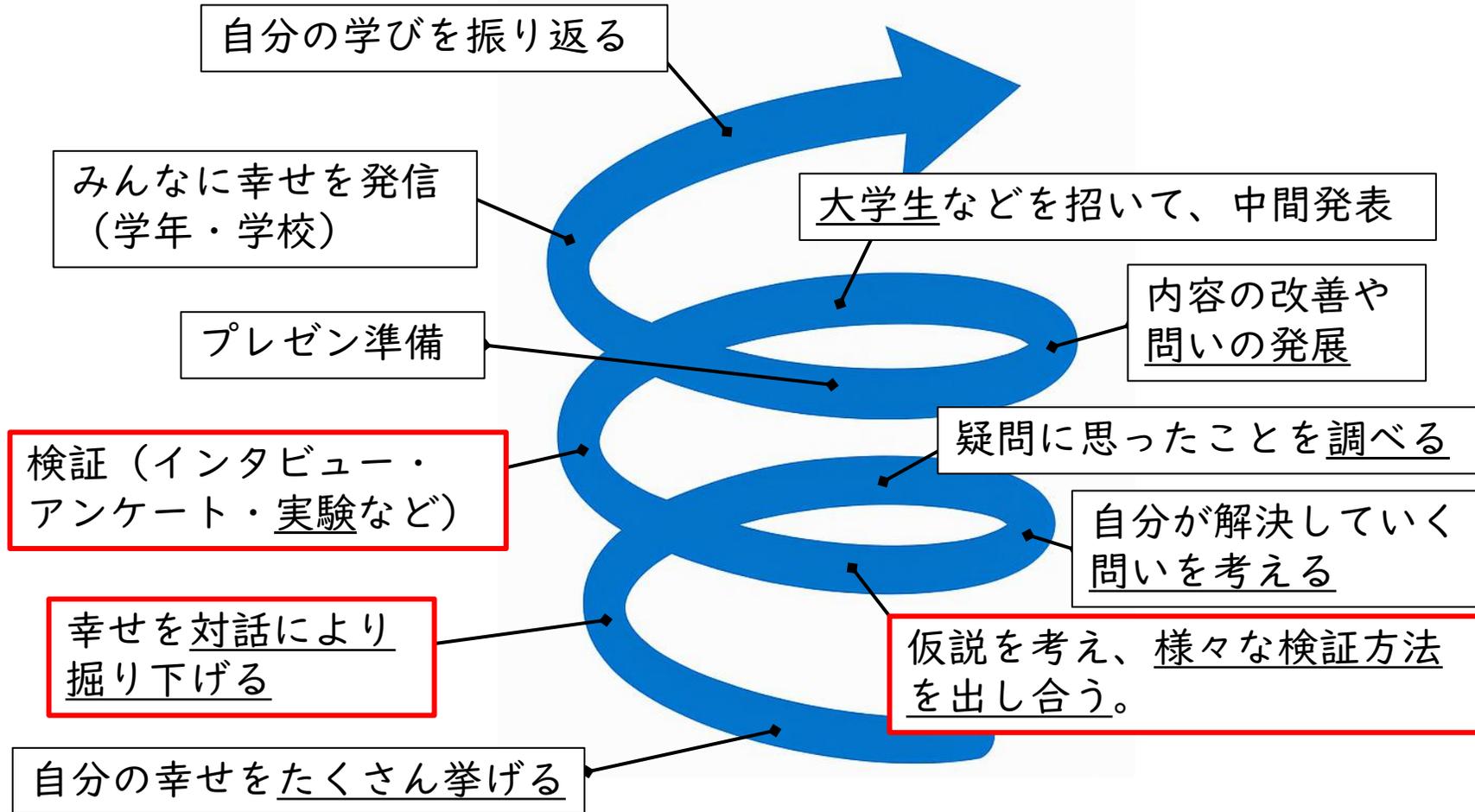
次回は他府県と比較して違いをみつける。

思考が整理され、学びが自分のものになる。

# E校

## ～自分にとっての幸せを考えるキャリア单元～

○対象学年… 3年生                      ○時数… 20h  
○学級数 … 7クラス



自分にとっての幸せを  
発信しよう

自分の問いに対する  
仮説を検証しよう

対話と自問自答を  
しながら問いを考えよう

自分にとって幸せ  
とは何なんだろう

### 気づきから自分が考え続けたい問いを生み出す工夫

幸せを対話により掘り下げる

#### 対話による具体化

「なんで」

「なんで」

「なんで」

「なんで」

好きなもの  
動物→イライラが吹き飛ぶ→  
顔がかわいい→癒されるから  
→なんで人間と違う骨格なの  
かな

対話することで、新しい視点  
で思考を広げる

#### 問いを見つめ直す対話

探究的な学びを促す手助けに

「比べると」

「そもそも〇〇っ  
てどういうこと」

「もし〇〇  
だったら」

「立場を変えると」

「今まで浅くしか考えられなかった  
問いについて、深掘りすることができて、  
今後の活動がやりやすくなった。」  
「人に聞くことで、自分では気づけな  
ったことに気づいた。」

NHK for School「Qワード」参照

#### 問いの例

- ・ 人間性を見るにはどこを見るべきか。
- ・ 睡眠時間によってその日の気分と集中力はどう変わるのか。
- ・ どうすればもっと球速が出るのか。 ・ どうしてスポーツ観戦は人を感動させるのか。
- ・ 人は一人で生きていけるか。 ・ 人はどういう人と一緒にいたいのか。
- ・ チームワークを高める一番の声かけは。 ・ 自己肯定感を高める最高の方法とは。
- ・ 動物の尊い命を守ったり、助けたりするにはどうすればよいか。

検証（インタビュー・アンケート・実験など）

子どもたちのやりたいを大事にできる環境の整備

先生にインタビューをしている様子

情報収集のためのインタビュー



多様なアンケートと回答

タブレットで動画を見ている生徒

動画から情報収集

先生に発表している生徒

どこでもアウトプット

自分たちからいきいきと行動し、進んで表現する姿

大学生などを招いて、中間発表

山場の工夫。大学生や大人を招いて中間報告を実施することで、単元の目標に向けた生徒の探究活動の改善につなげる

発表内容について  
○問いと結論の関係  
○正確な語句の用法  
○テーマとのつながり  
発表会の持ち方  
○参加型

講評をうけて

対話をしながら内容を深めている生徒

（アドバイスシートと友達の意見を聞きながら）もっとこの内容を整理した方が伝わりやすいかな？

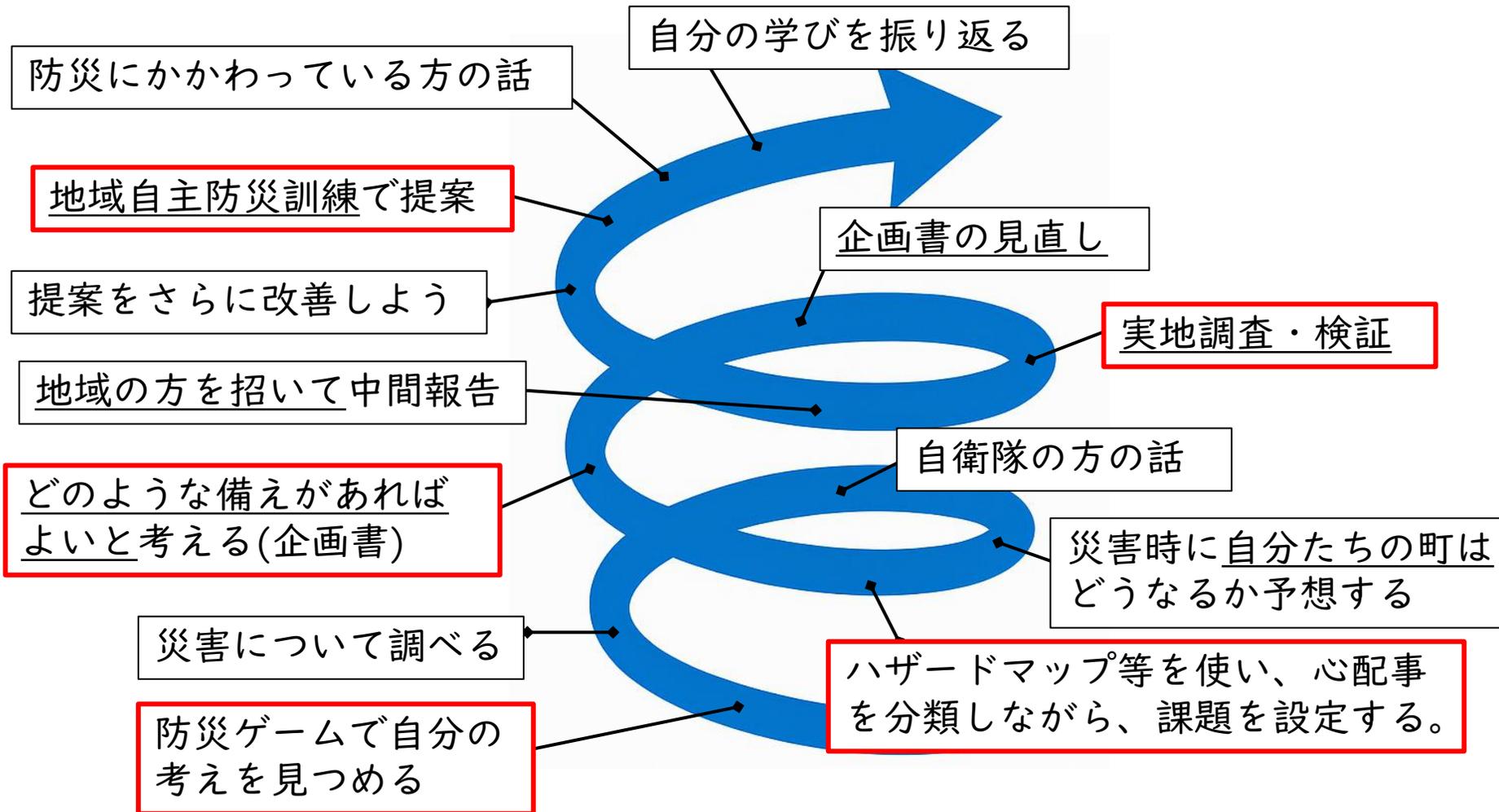
（アドバイスを受けて）もっと問いの答えにつながるために、アンケートを取り直そう

根拠をもって説明できるためにはさらに何が必要で、どう整理分析したらよいかを考えるきっかけに

# F校

## ～自分たちの町の防災のための提案～

○対象学年… 7年生  
○学級数 … 3クラス  
○時数… 23h



地域自主防災訓練  
で提案しよう

私たちの町を守る  
企画書を作ろう

課題を見つけよう

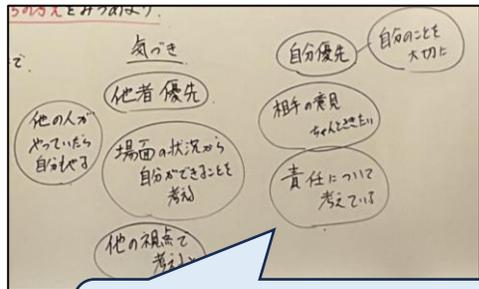
私たちの町の災害  
について知ろう

# F校

## ～自分たちの町の防災のための提案～

気づきを大切にしながら、生徒たちのやりたいことを実現

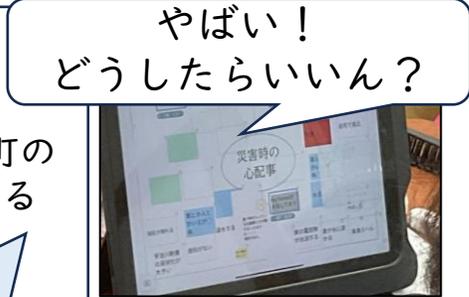
防災ゲームで自分の考えを見つめる



生徒の気づきもとに授業展開

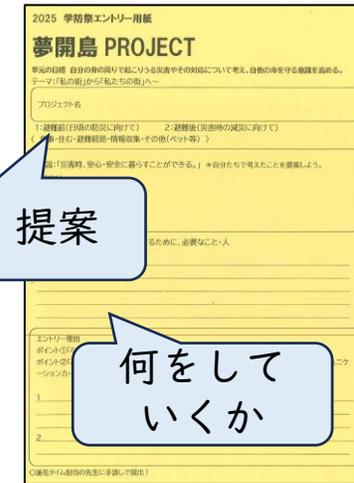
ハザードマップ等を使い、心配事を分類しながら、課題を設定する。

地図やタブレットを使いながら自分の町の心配事を考えている生徒



地図などを使うことで課題や困りが現実的に

企画書



提案

何をしたいか

老人ホームに行きたい

生徒にアドバイスを送っている様子

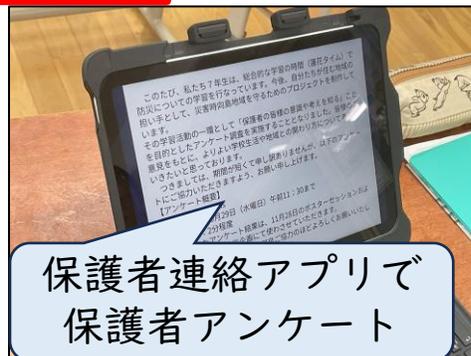
そこで何を提案しにいくの?

教員と対話をすることで自分たちの考えを整理

実地調査・検証

目的をもって活動している様子

備蓄倉庫で在庫確認



保護者連絡アプリで保護者アンケート

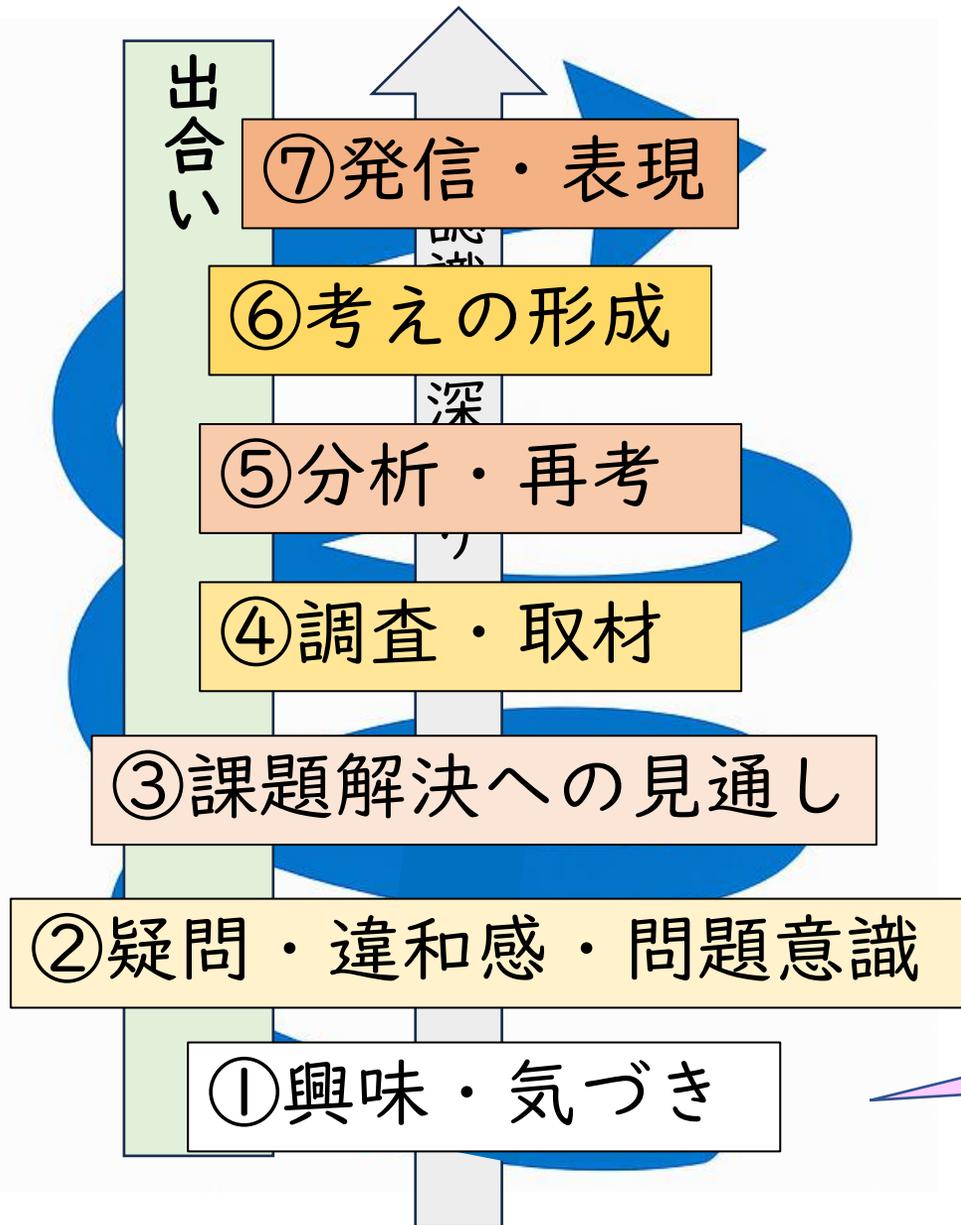
地域自主防災訓練で提案

地域の方へ提案している生徒

地域の方に提案 → 地域の方も協力的に

### 3.①単元全体のデザイン

～実践から見えてきた有効な「探究プロセス」  
単元計画のために～



こうすればいいのでは？

自分の問いを生み出す。

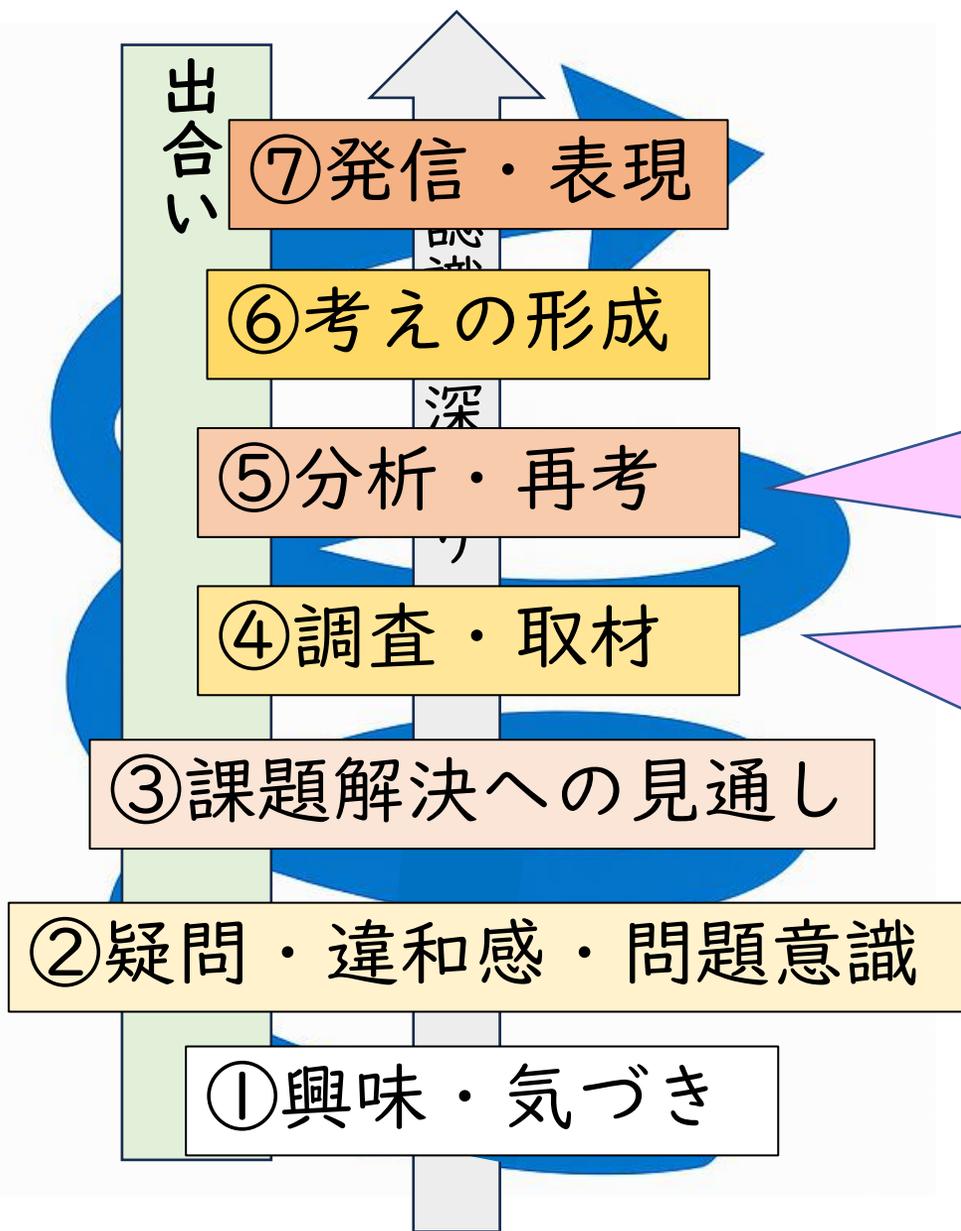
気になる→なぜ、どうして

なんとかしたい・解決したい→どうすれば

なるほど。だいたいわかった。気になるな。

### 3.①単元全体のデザイン

## ～実践から見えてきた有効な「探究プロセス」 単元計画のために～



これらの情報から何がわかるの？  
考える技法を使って分析

集めた情報で解決のために吟味する

調査や取材で  
得た情報



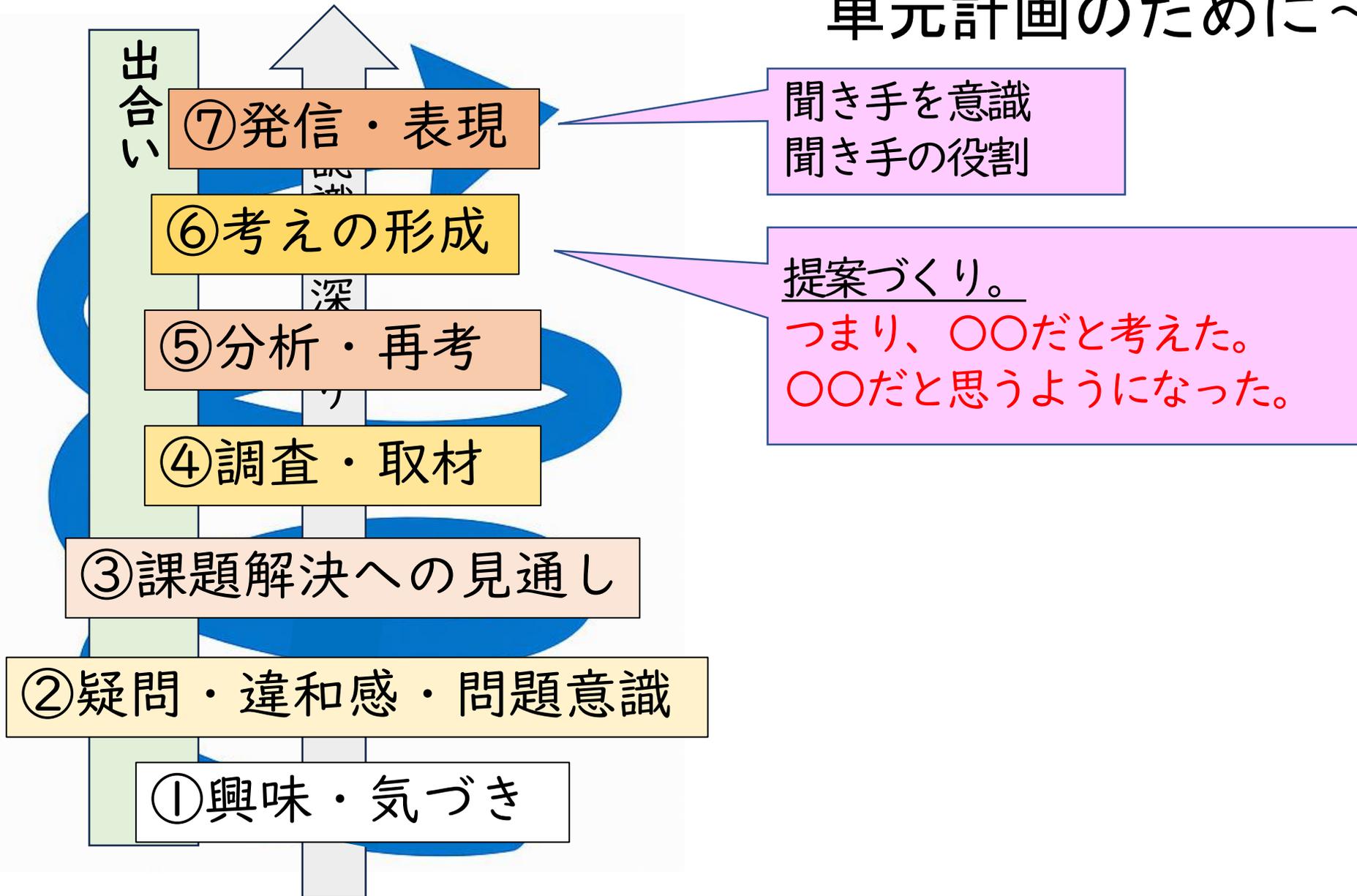
本当に？  
さらに？  
何で/どうして？  
どうしたら？ など

問いの質を高める

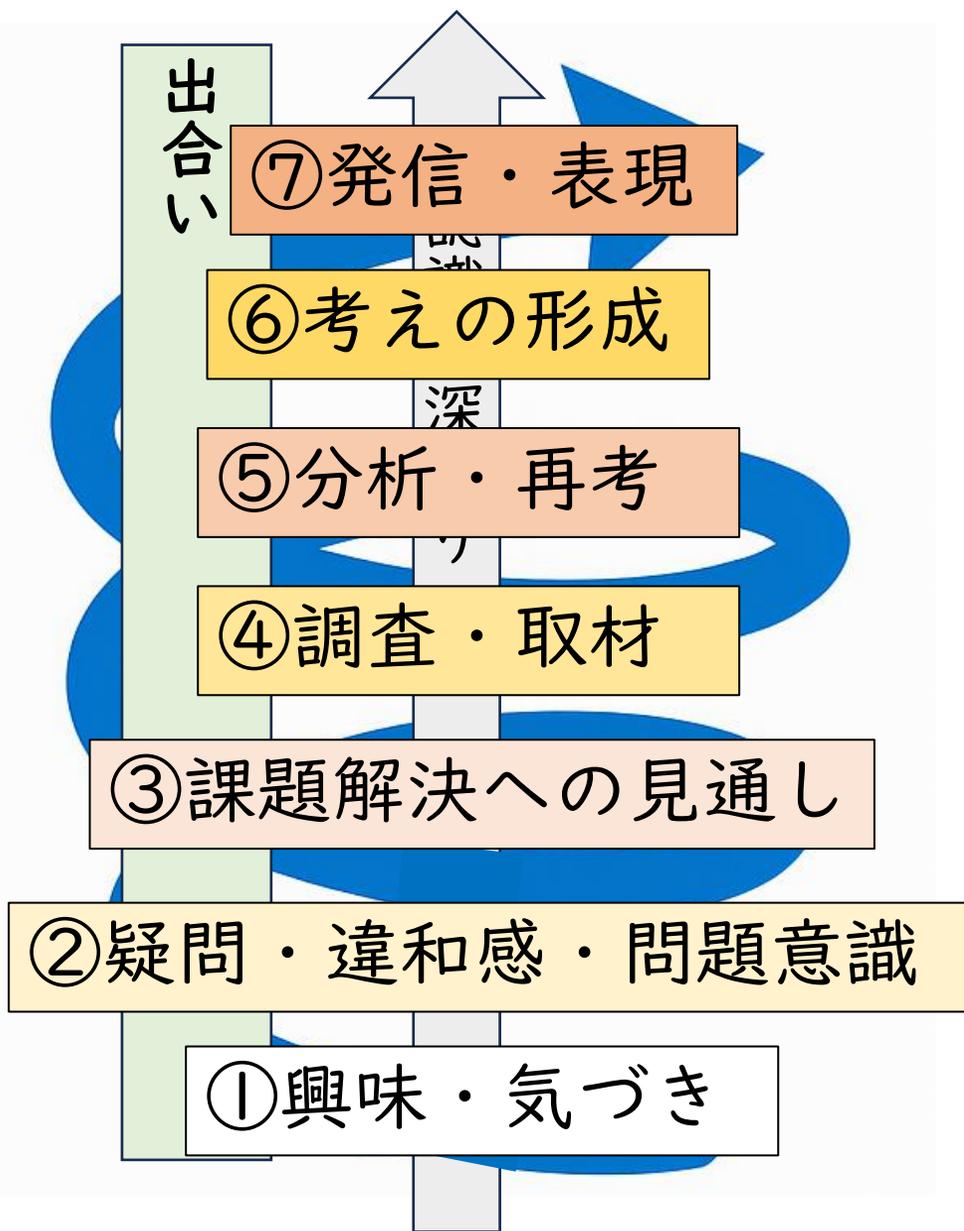


### 3.①単元全体のデザイン

## ～諸実践から見えてた有効な「探究プロセス」 単元計画のために～



～教員の伴走～



- 生徒の記述  
→次時の初めの軌道修正
- 授業中の生徒の言動  
→助言や励まし

どうしてそう考えた？  
何のために？  
どうしたいの？ など

考えや思いを言語化する。  
見通しをもつ。

# 3. 探究的な学びの歩み

① 単元全体のデザイン

② 教員の探究的な姿勢の醸成

### 3. ②教員の探究的な姿勢の醸成

～学年団での目標や見通しの工夫～

単元開始前

つきたい資質・能力から単元の流れを協議

→ 教員がまず総合的な学習の時間を自分事に

B校

学校教育目標

自らを高め 共に生き 希望を抱いて未来を拓く (希望推進力)

単元目標

「京都」に関わるヒト・モノ・コトに関する出合いを通して、現代社会の様々な課題に気づき、自らの生活と関連付けながら、課題を解決するために探究的な見方・考え方を働かせ、持続可能な社会の担い手として自己の生き方にいかしていこうとする。

「京都」どんなところなのか

様々な角度から提言を検討しよう

提言案が現実的なものか検証しよう

色々な人に提言案を伝えて、よりよい提言案にしていこう

実際に街づくりを担当している人たちに、自分たちの提言案を伝えよう

自分たちの行動で社会を少しでも変えることができるんだという経験をさせたい

生徒にどんどん行動させたい。地域の人や区長さんに提言させてはどうか。

単元の流れについて話し合っている先生方の様子

教員の指導言

### 3. ②教員の探究的な姿勢の醸成

## ～学年団での目標や見通しの工夫～

単元中

流れの共有や授業後に生徒の姿や記述から見取り、修正を話し合う  
→ 教員同士の対話の増加と姿勢の向上

#### 指導案 (B校)

学習内容	発問と予想される生徒の反応	配布物等
13:40 ベル着 *アロイ17班で 〇導入 〇本時のねらいを 発表する。 〇活動① (80分) 〇まとめ (5分) ~14:25 外出予定班	・13:40 【ランチ】 環境 A①② 食観光 B①② 【図書室】 交通 A~D①②・財政 A①②・食観光 C①② 【本時の流れ】 ① 進捗状況報告会 プロジェクトの進捗の共有、悩みの解決 ② プロジェクトの改善 ねらい「プロジェクトの改善に向けて」 【伝達事項】 ・進捗状況報告会を、ただの発表会にしな 自分たちの課題へのヒントを得られるよ ・この後の活動に向けて整理しよう。 ③準備 (10分) 13:40~13:50 発表準備 ④進捗状況報告会 13:50~14:15 【流れ】 発表ベア (8年+9年) が自席に残り、残りの学園生 が交流に回る。(夏の研修会をイメージ) 発表ベアは、「プロジェクトの悩み、課題」を共有し、 交流者はその解決策を考え、付箋に残してあげる。 【時程】 発表① (発表1分半+交流5分) 13:50~13:57 発表② (発表1分半+交流5分) 13:58~14:05 発表③ (発表1分半+交流5分) 14:06~14:13 ~14:25 アロイ進行②をさらによ	【授業前】 各担当で探究 ノート返却 ・班カブチャッ を配布

本時の流れ

ねらい

次回に向けて

外出者予定

#### 提案書 (D校)

3組 3班

疎水クエスト～in 山科～

現状と課題  
電車の便は良いし、近隣の車の交通の便が悪い事。

課題  
山科疎水の歩行コースに自分たちが考えた道で  
デジタルスタンプラリーをじしする。  
わざと駐車場をそのままにして、逆に歩いてもらう。

改善に要する費用・期間等  
デジタル費用 1万～5万 2～3月程度  
看板費用

効果とリスク  
観光客に山科の自然をより感じてもらえる。  
→スタンプラリーでイベント感がでて人が集まる

改善策

課題

効果とリスク

どうだった

知名度が低いという  
意見が多かった

生徒の記述や姿

本当に知名度って低いのかな？  
その根拠を次回にはもう少し考え  
させてみよう。

国語の授業でも問いかけて  
みよう。

(子どもたちの主体的な姿を見て) もっと  
教科でも生徒に任せていけると思った。

### 3. ②教員の探究的な姿勢の醸成

## ～学年を超えたアイデア会議～

年度末に生徒の姿で課題を共有

→自校の探究的な学びの方向性が見えてくる

年度末に成果と課題

前年度

学年の困りをみんなで話し合う。  
よかった学年の取組との違いを分析

学年を超えて話し合っている先生方の様子

じゃあ次回はこうすれば  
よかった単元構想をもちよう

自分ごとになりにくかったのは、  
本物に出合わせてあげられて  
いないからかな？

方向性の協議やグランドプラン

今年度初めに共有・具体化

### 3. ②教員の探究的な姿勢の醸成

～年度をまたいだ見取りと修正～

年度中

学年ごとの探究的な学びのステップアップ

→ 学年セクトからの脱却

#### 月ごとの振り返り (A校)

4月～7月下旬までの歩みを振り返ろう(2年)



#### 学年の取組発表と協議 (B校)

生徒の実態・取組の今の悩み

自学年の単元計画を  
付けたい生徒の力で  
プレゼンをしている先生方の様子

成果と課題

【学習面での課題】

●グループによっての差 ⇒

学習の深度の差(個々の能力差)  
メンバー構成による差  
(男女比・元々の関係性)  
学習への姿勢の差(自分ごとか)



※発表の一部抜粋

他学年の先生たち

この差から課題が明確に、  
どうすればよいかを話し合う

他学年の取組を知る、話し合うことで、  
学校全体で付けたい力につなげる

## 4.成果と課題

### ～生徒の振り返りの活用～

サンリオが昔から愛されている理由は

『本当にそれが正しいのか』を様々な角度から考え直す力が身についたと思います。最初は「サンリオの人気は、可愛さによるもの」と考えていましたが、調査を進める上で、**企業の努力の数々、人の心に寄り添う姿勢、それだけでなく老若男女から愛されていることなど、見えていなかったより深い部分が見えてきました！**そこから、勉強でも、どんなに小さなことでも**思い込みで終わらすのではなく、疑問や興味を持って追求する姿勢**の大切さを学びました！

どうすれば物価を下げてその状態を維持できるか

物の値段には原料・輸送コスト・人件費・利益などが含まれている。値段を下げることができるのは、輸送コストの部分。**地元で作られた野菜を地元で販売することで削減できる。**（**地域でとれた野菜の販売を計画**はできたが）実践することはできなかったけど、**高校でなぜその取組ができていいのかインタビューして、それを生かす探究**をしてみたり、物価を下げる以外での暮らしやすくする工夫は何かあるかと別の観点からも探究がしてみたい。

コーンの中のアイスはどのくらい詰まっていたらベストなのか

みんなの発表を聞いて、明日からやってみようや、楽しそうなどたくさん発見ができて新たな幸せを見つけることができたので、**幸せは人生において役に立つことばかりなんだ**と考えました。。アイスについて調べたけど、**調べていくうちにこれはどうなんだろうや、やってみたい**という気持ちになって、やっていくうちに、さらにアイスのことを知り、それもまた幸せでした。幸せはどこかに潜んでいることを知って、私は**1つ1つの幸せを発見できるように**なりたいたいと思いました。

批判的思考

気づき

学びに向かう力

## 4. 成果と課題

# ～研究協力校のアンケート結果より～

内容：

- ①各ステップ（課題の設定、情報の収集、整理・分析、課題解決、まとめ・表現）で生徒が自分の力でできたと感じた度合い。（四件法）→「4：できる⇔1：できない」
- ②「どのような力がつきましたか。」（記述式）
- ③「総合的な学習の時間が好きですか。」（二件法・記述式）→「4：はい⇔1：いいえ」

実施時期：7月(1回目)と単元終了時(2回目)

結果：各項目の平均値

		A校		B校		D校		E校		F校	
		3年		9年		1年		3年		7年	
		7月 (中)	12月 (終)	7月 (中)	12月 (終)	7月 (始)	1月 (終)	7月 (始)	12月 (終)	7月 (始)	11月 (中)
		平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均
①	課題設定	3.39	3.35	3.39	3.41	3.09	3.57	3.42	3.64	3.17	3.39
	情報収集	3.48	3.55	3.48	3.44	3.24	3.53	3.45	3.65	3.17	3.56
	整理・分析	3.47	3.60	3.47	3.36	3.05	3.45	3.42	3.65	3.13	3.33
	課題解決	3.44	3.39	3.44	3.54	3.18	3.55	3.47	3.66	3.19	3.52
	まとめ・表現	3.18	3.56	3.18	3.28	2.75	3.16	3.15	3.43	2.89	3.21
③	好き	3.65		3.65	3.41	3.39	3.07	3.50	3.45	3.44	3.37

※単元の途中が1回目の実施になった学校もあり

1回目と2回目の差から考察

## 4. 成果と課題

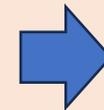
### ～研究協力校のアンケート結果を分析～

		A校	B校	D校	E校	F校
		3年	9年	1年	3年	7年
		7月→12月 (中)→(終)	7月→12月 (中)→(終)	7月→1月 (始)→(終)	7月→12月 (始)→(終)	7月→11月 (始)→(中)
		増減	増減	増減	増減	増減
①	課題設定	▼0.04	△0.02	△0.48	△0.22	△0.22
	情報収集	△0.07	▼0.04	△0.29	△0.20	△0.39
	整理・分析	△0.13	▼0.11	△0.40	△0.23	△0.20
	課題解決	▼0.05	△0.10	△0.37	△0.19	△0.33
	まとめ表現	△0.38	△0.10	△0.41	△0.28	△0.32

③ ①から、探究のプロセスの概ね全般で、自分の力でできたと感じた割合が上昇

②の1回目と2回目の記述を比較して、生徒がついたと自覚した力

- ・ 現地調査やインタビューで情報を集める力
- ・ 相手に伝わる発表ができる力
- ・ 対話を深める力
- ・ 計画してやりきる力
- ・ 自分の生き方につなげる力
- ・ 地域に向き合い行動する力



**総合的な学習の時間で  
つけたい資質・能力  
一定の成果**

#### 4. 成果と課題

### ～総合的な学習の時間は好きですか～

		A校	B校	D校	E校	F校
		3年	9年	1年	3年	7年
		7月→12月 (中)→(終)	7月→12月 (中)→(終)	7月→1月 (始)→(終)	7月→12月 (始)→(終)	7月→11月 (始)→(中)
①	課題	<div style="border: 2px solid red; padding: 10px;"> <p>協議 もっと好きになるためにはどうすればよいで しょうか。</p> </div>				
	情報					
整理						
課題						
	まとめ表現	△0.38	△0.10	△0.41	△0.28	△0.32
③	好き		▼0.24	▼0.32	▼0.05	▼0.07

総合的な学習の時間が好き → 減少

# 4. 成果と課題

## ～次期学習指導学習要領に向けて～

補足イメージ1-②

「主体的・対話的で深い学び」の実現を通じた  
**自らの人生を舵取りする力** と **民主的で持続可能な社会の創り手** 育成 (今後の検討イメージ)

「好き」を育み、「得意」を伸ばす  
(興味・関心)

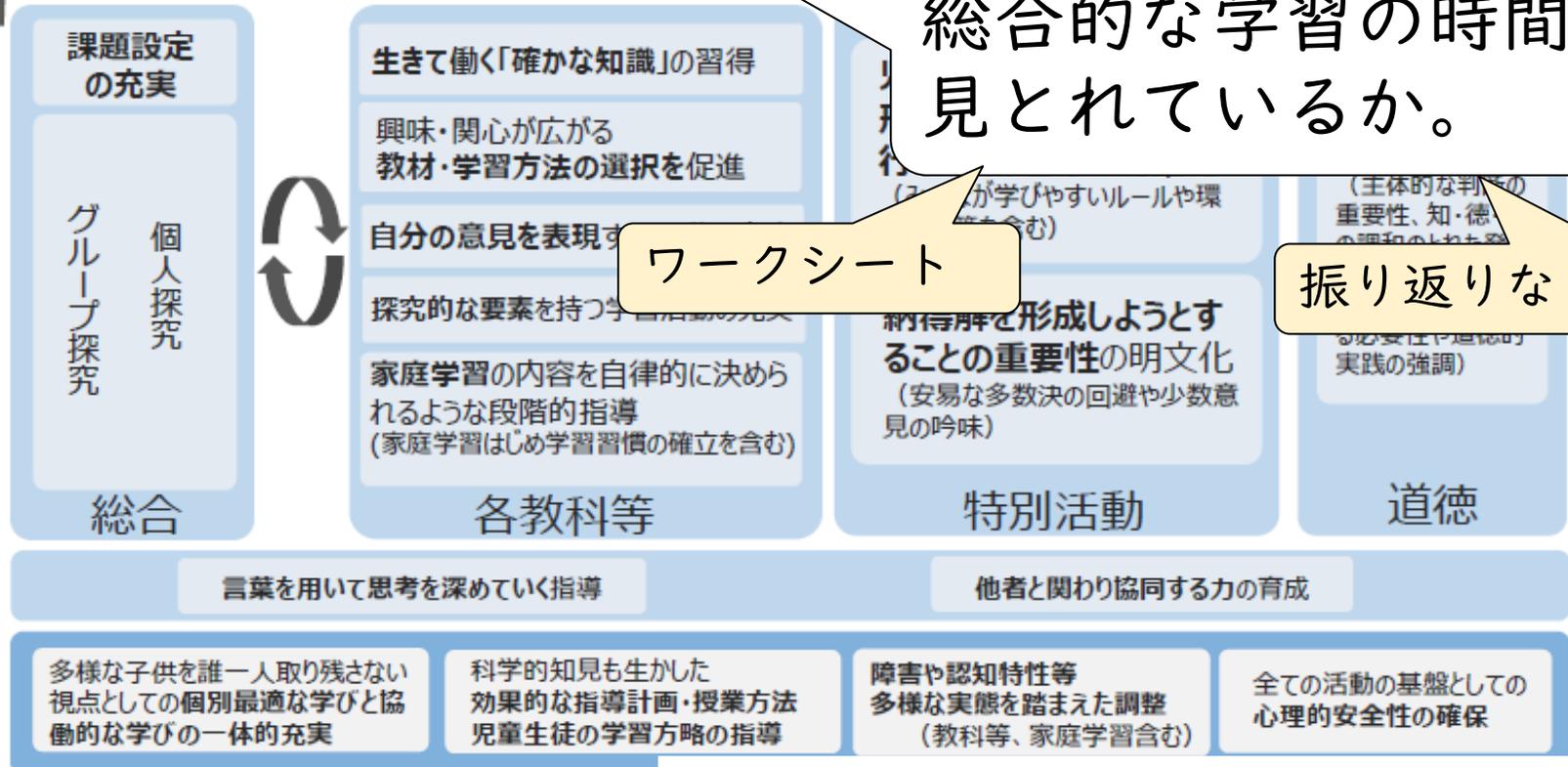
×

当事者意識を持って、自分の意見を  
 形成し、対話と合意ができる

【各教科等での検討イメージ】

好き・得意をベースとした  
 主体的な進路選択の促進

高  
中  
小  
幼



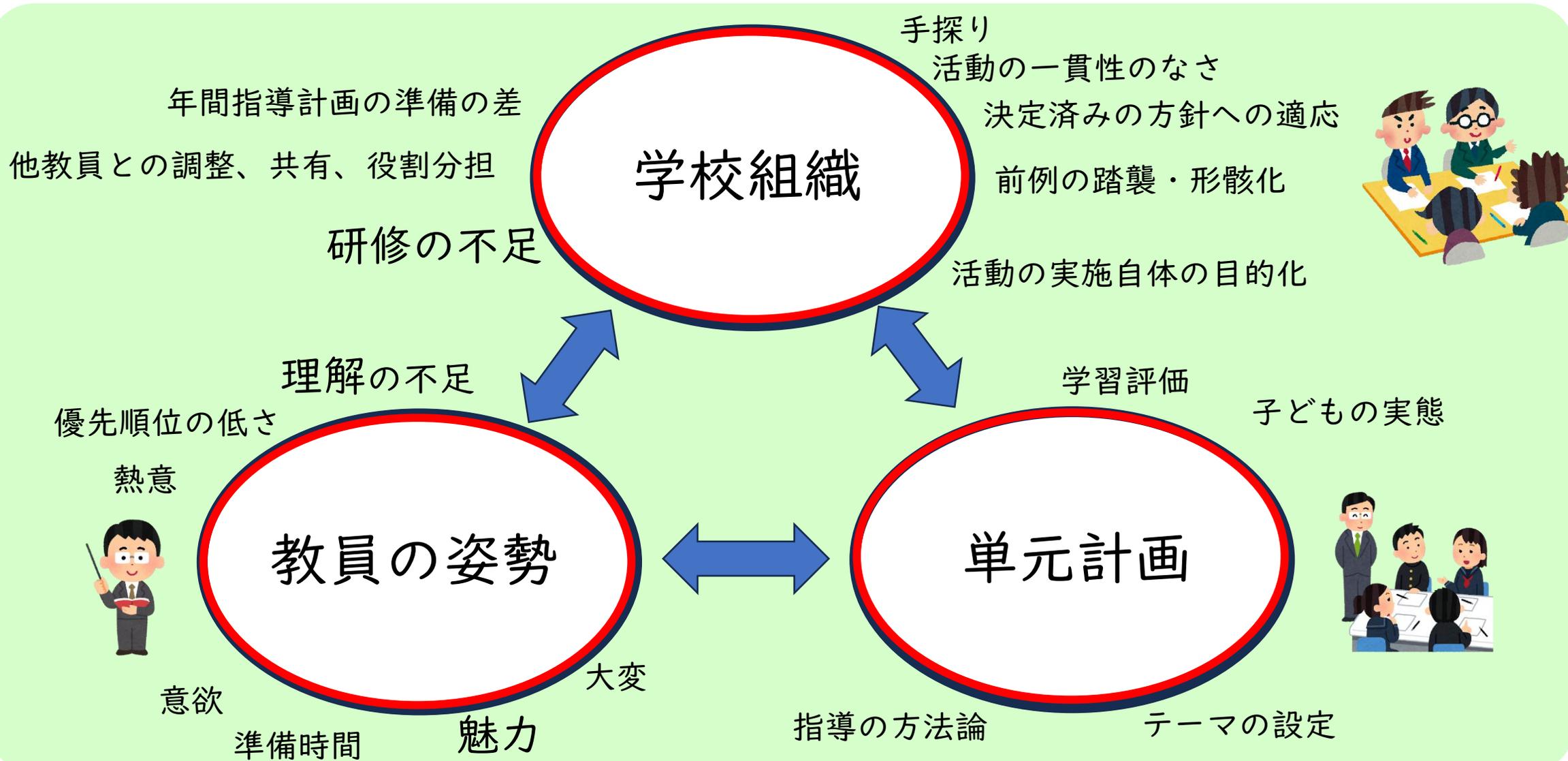
総合的な学習の時間が見とれているか。

ワークシート

振り返りなど

## 4. 成果と課題

～二年次に向けて～



# 総合的な学習の時間のさらなる充実

～調べ学習から探究への歩み～

